

説明用資料

# 平成26年度 上半期経営報告会

平成26年11月20日

# 目次

## 平成26年度上半期の主な取り組み

□地域経済活性化への取り組み	4
□お客さま満足度向上への取り組み	9
□社会貢献・環境保全への取り組み	12
□人材育成への取り組み	15
□格付取得のご報告	16

5-1 純資産の状況	26
5-2 自己資本比率の状況	27
5-3 不良債権の状況	28
6-1 貸借対照表	29
6-2 損益計算書	30
7 平成26年度計画の進捗状況	31

## 平成26年度上半期決算の状況

1-1 預金積金の残高	18
1-2 預金積金の内訳	19
2-1 貸出金の残高	20
2-2 貸出金の内訳	21
3-1 損益の状況	22
3-2 損益の増減要因	23
4-1 有価証券の運用状況	24
4-2 有価証券の評価損益	25

## 対処すべき課題

□収益基盤の強化	33
□営業力の強化	34
□課題解決力のある人材育成	35

# 平成26年度上半期の主な取り組み

## 地域経済活性化への取り組み

◆平成26年4月1日

### 医療・介護分野の専担グループを設置

少子高齢化が急速に進展する中、医療・介護の相談ニーズの高まりを受けて「医療・介護グループ」を設置しました。

また、平成26年4月に実施された診療報酬の改定内容を踏まえ、今後診療所が求められる将来像について説明する「診療所向けセミナー」を開催しました。

医療・介護事業者の方などへの経営相談セミナー開催など、幅広い経営課題の解決をサポートします。



## 地域経済活性化への取り組み

### ◆平成26年7月

#### 「新ものづくり補助金申請」訪問サポートを実施

革新的なものづくり・サービスの提供にチャレンジする中小企業の皆さまに対し、国が設備投資や試作品開発等に要する費用の2／3を補助金として交付する「新ものづくり補助金」の公募が行われました。

これに伴い、当金庫では、お客さまの補助金採択の向上を図るため、訪問等によるサポートや、申請に精通した専門家を相談員に招いた巡回相談会を実施しました。

※平成26年度上半期 申請支援件数 **102** 件。

## 地域経済活性化への取り組み

### ◆平成26年8月

#### 「地域中小企業のシニア人材確保

#### ・定着支援事業」へ参画

中小企業庁事業に参画して、1つの分野に10年以上の職歴を持つ50代以上の退職者や退職予定のシニア人材を、経営課題を抱えるお取引先企業に派遣し、さまざまな経営課題の解決をサポートします。



お取引先との交流会を通じてマッチングサポートしていきます。

## 地域経済活性化への取り組み

◆平成26年10月1日

### 「サービス付き高齢者向け住宅」融資 住宅金融支援機構と協定

独立行政法人住宅金融支援機構と「サービス付き高齢者向け住宅事業に対する融資における協調融資に関する協定書」を締結しました。

バリアフリー構造で、生活相談や安否確認といった生活支援サービスを提供するなど、国の基準を満たした「サービス付き高齢者向け住宅」の事業に対して当金庫と独立行政法人住宅金融支援機構が協調して融資を行います。

## 地域経済活性化への取り組み

### お客さまの海外ビジネスを支援

- ◆平成26年4月14日  
交通銀行と業務提携契約を締結
- ◆平成26年7月2日  
バンコク駐在員事務所を開設





## お客さま満足度向上への取り組み

### ◆平成26年4月2日

預かり資産業務における提案力強化を図るため、  
全営業店にタブレット端末を導入

お客さまに対して、タイムリーな情報提供や分かりやすい説明など、一層の提案力強化を図るため、全ての営業店にタブレット端末を導入しました。



毎月15日には、タブレット端末などを使用した「資産の相談日」を全ての営業店で実施しています。

## お客さま満足度向上への取り組み

### ◆インターネットバンキング

### 24時間稼働を開始

お客さまからの、ご要望が多かった、「インターネットバンキングご利用時間の拡大」を実施し、一部メンテナンス時間を除き、24時間稼働を開始しました。

#### お申込いただけるローン

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| ①カーライフローン        | ②カーライフプラン・エコ  |
| ③教育ライフプラン        | ④教育カードローン     |
| ⑤ライフローン          | ⑥リフォームプラン     |
| ⑦へきしんきゃっする300    | ⑧フリーローン「ラピッド」 |
| ⑨カードローンWallet など |               |

## お客さま満足度向上への取り組み

### ◆お客さまのニーズにお応えした

### さまざまな商品をご用意



外貨定期預金  
キャンペーン



ヘきしん  
カードローン  
Wallet

キャンペーン商品をはじめ、地域の皆さまの生活設計や資産の形成、資金需要などのお役に立てるよう、各種商品を取り揃えています。

## 社会貢献・環境保全への取り組み

### ◆地域行事への参加



安城七夕まつりダンスコンテストに参加



有松絞りまつりにボランティア参加

**地域の皆さまとのつながりを大切にするために、地域の行事・イベントに積極的に参加しています。**

## 社会貢献・環境保全への取り組み

### ◆金融教室、職場体験を実施



高校生・大学生「インターンシップ」の受け入れを実施



地域の小学校で「金融教室」を実施

**地域の明日を支える人づくりをお手伝いすることで、地域の未来に貢献したいと考え、金融教室などを実施しています。**

## 社会貢献・環境保全への取り組み

### ◆環境保全活動を実施



内海海水浴場の清掃活動を実施



クールビズ・ウォームビズを実施

**限りある資源・エネルギーを大切にするために、地域の皆さまとともに環境保全に取り組んでいます。**

## 人材育成への取り組み

### ◆さまざまな勉強会・研修を実施



資産運用推進リーダー研修



窓口対応セールス  
ロールプレイング庫内大会

課題解決力のある人材の育成、若手職員の早期戦力化、女性職員の営業力強化を図るため、さまざまな勉強会・研修を実施しています。

主な公的資格等の取得状況

資格名	取得者数
中小企業診断士	14
社会保険労務士	4
行政書士	10
宅地建物取引主任者	135
1級FP技能士	30
2級FP技能士	702
3級FP技能士	270
CFP	3
AFP	9
DCプランナー1級	3
DCプランナー2級	10
証券アナリスト	2

平成26年10月1日現在

## 格付取得のご報告

### ◆ JCR格付において、10年連続で「A+」を取得

株式会社日本格付研究所（JCR）

格付の種類：「長期発行体格付」

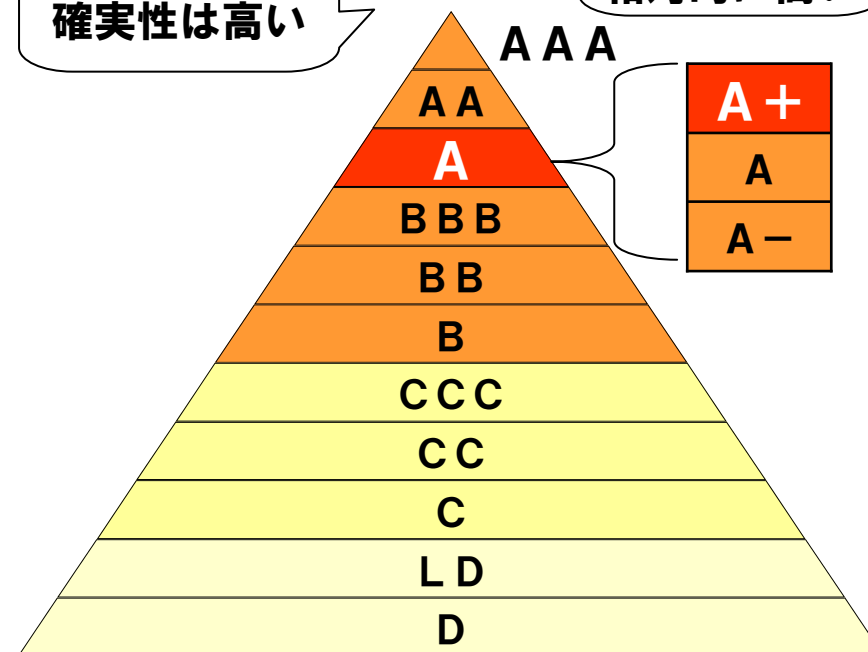
格付：**A+**

格付見通し：「安定的」

平成26年10月取得

債務履行の  
確実性は高い

Aの中でも  
相対的に高い

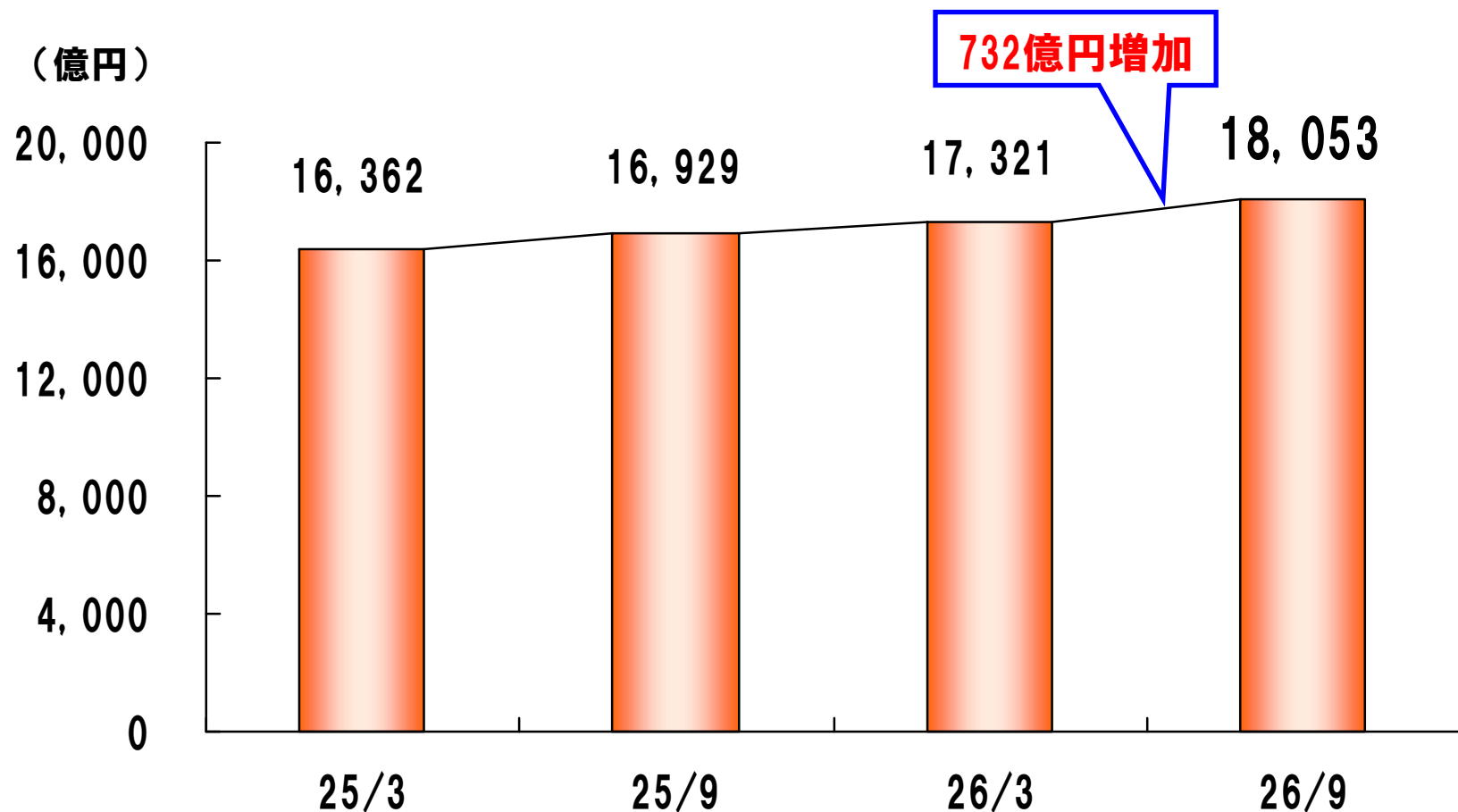




# 平成26年度上半期決算の状況

# 1-1 預金積金の残高

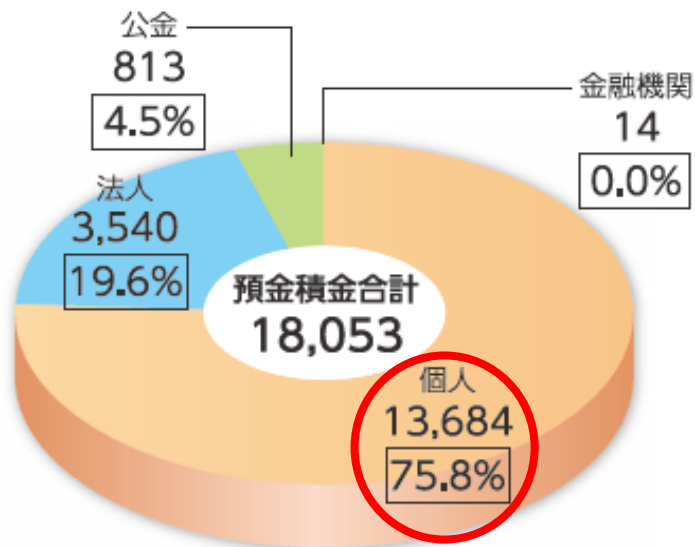
- 預金積金残高は1兆8,053億円。平成26年3月末比732億円増加。
- 個人のお客さまからの定期預金を中心に増加。



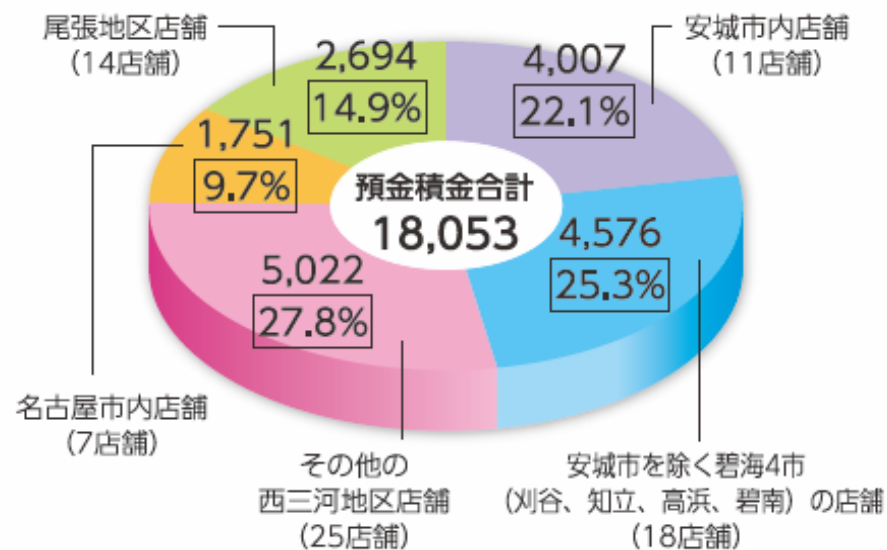
## 1-2 預金積金の内訳

- 個人のお客さまからの預金積金が全体の75.8%。
- 営業地区内の多くのお客さまからの幅広いご預金。

### ■ 預金者別預金積金残高



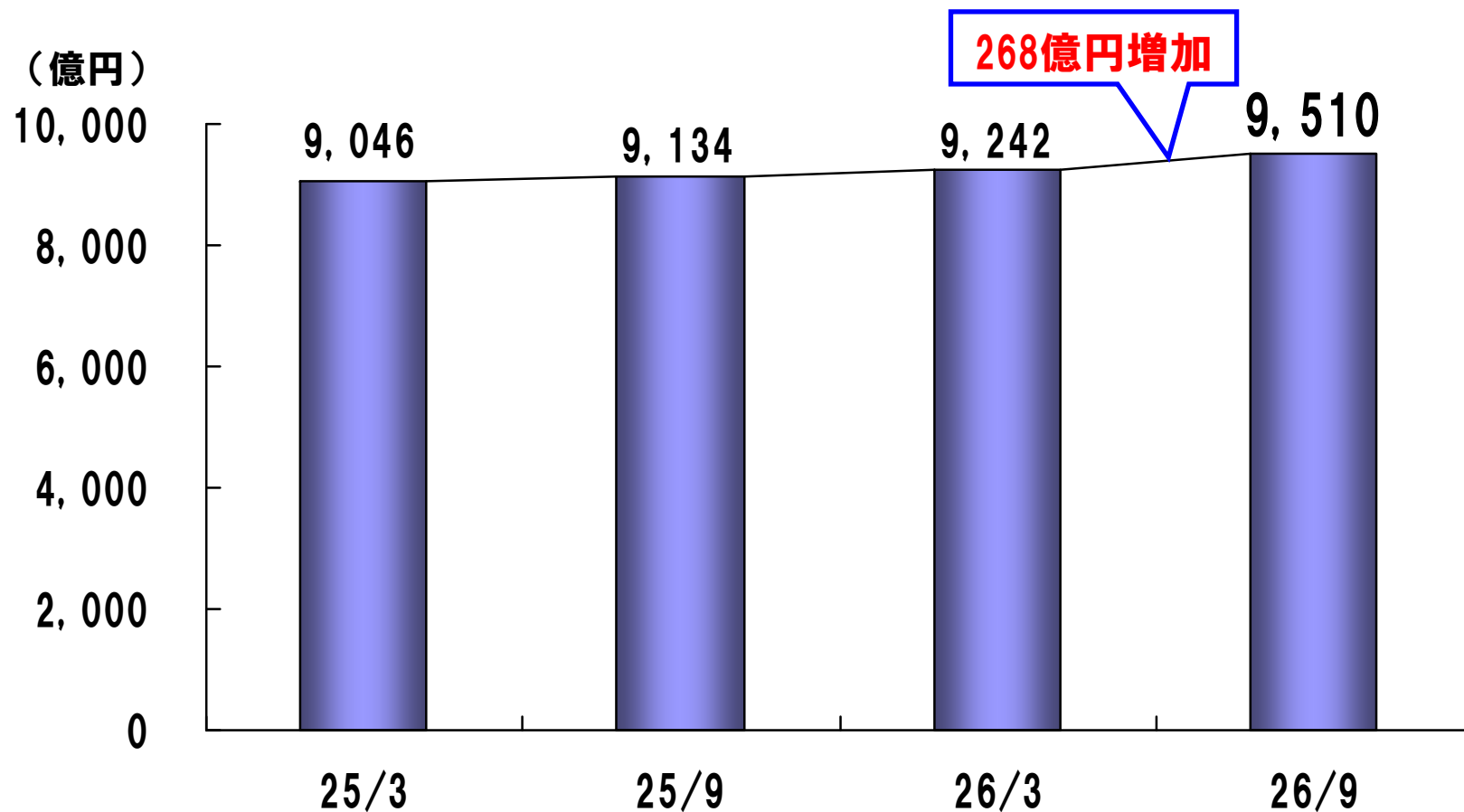
### ■ 営業店舗地区別預金積金残高



(平成26年9月末、単位：億円、□内は全体に占める割合)

## 2-1 貸出金の残高

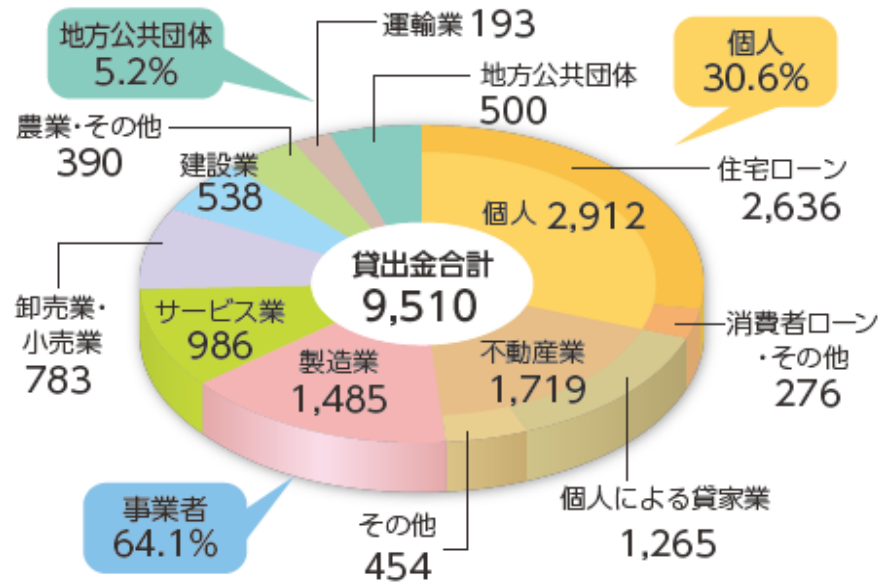
- 貸出金残高は9,510億円。平成26年3月末比268億円増加。
- 事業者向けの貸出金および個人向け貸出金がともに増加。



## 2-2 貸出金の内訳

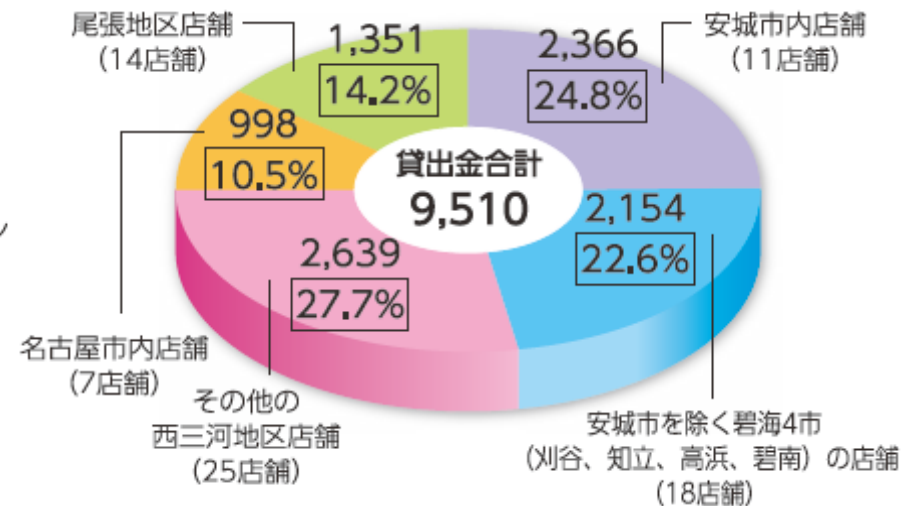
- 特定の業種に偏ることなく、幅広い業種の資金需要に対応。
- 営業地区内の多くの地域のお客さまにご融資。

■ 業種別貸出金残高



事業者向け貸出 6,097 64.1%  
(地方公共団体を除く)

■ 営業店舗地区別貸出金残高

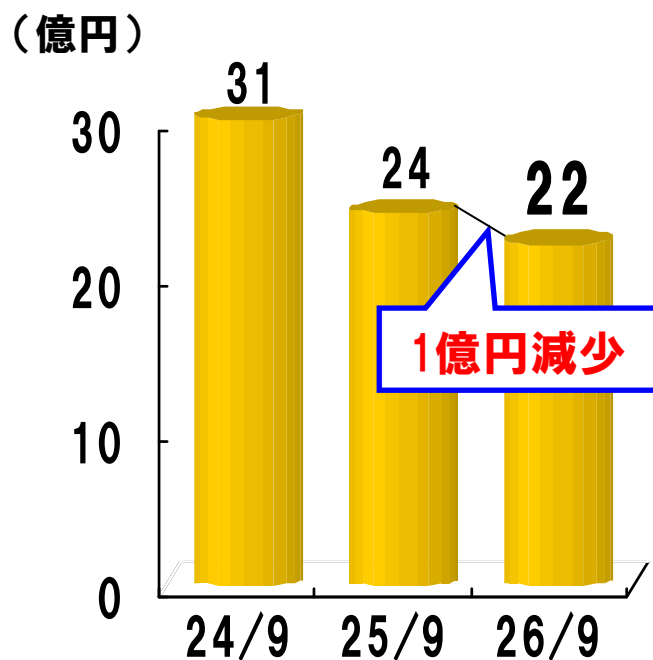


(平成26年9月末、単位：億円、□内は全体に占める割合)

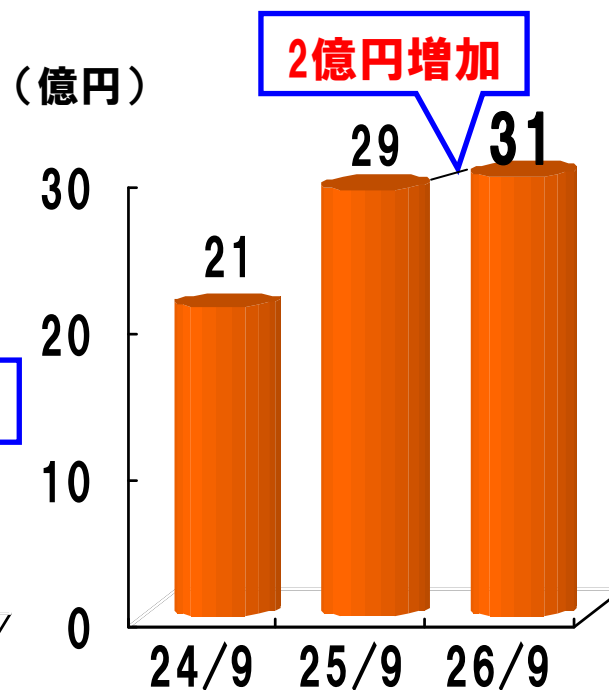
## 3-1 損益の状況

- 平成26年度上半期の業務純益 は 22億円、前年同期比 1億円 (6.5%) 減少。
- " 経常利益 は 31億円、 " 2億円 (6.9%) 増加。
- " 当期純利益は 23億円、 " 1億円 (8.9%) 増加。

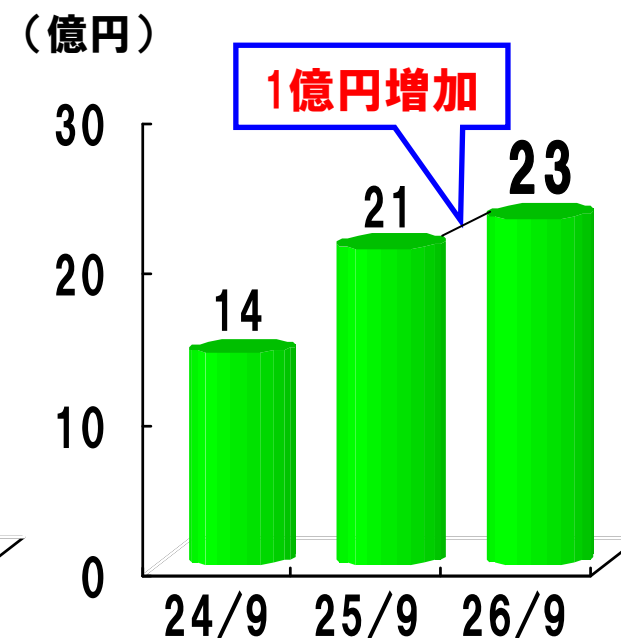
■ 業務純益



■ 経常利益



■ 当期純利益



## 3-2 損益の増減要因

(単位：百万円)

	平成25年度 上半期	平成26年度 上半期	増 減
業務粗利益	10,783	10,640	△143
資金利益	10,066	9,824	△242
役務取引等利益	538	562	24
その他業務利益	178	252	74
(うち国債等債券関係損益)	151	213	62
経費	8,324	8,341	16
人件費	4,773	4,815	42
物件費	3,338	3,306	△32
一般貸倒引当金繰入額	-	-	-
業務純益(※1)	2,459	2,298	△160
コア業務純益(※2)	2,308	2,085	△222
臨時損益	499	865	365
不良債権処理損益	△46	605	651
株式等関係損益	479	205	△273
経常利益	2,958	3,164	205
特別損益	△7	△22	△14
当期純利益	2,128	2,318	190

預金利息の増加や貸出金利回りの低下による貸出金利息の減少により、業務純益は前年同期比1億60百万円減少の22億98百万円となりました。

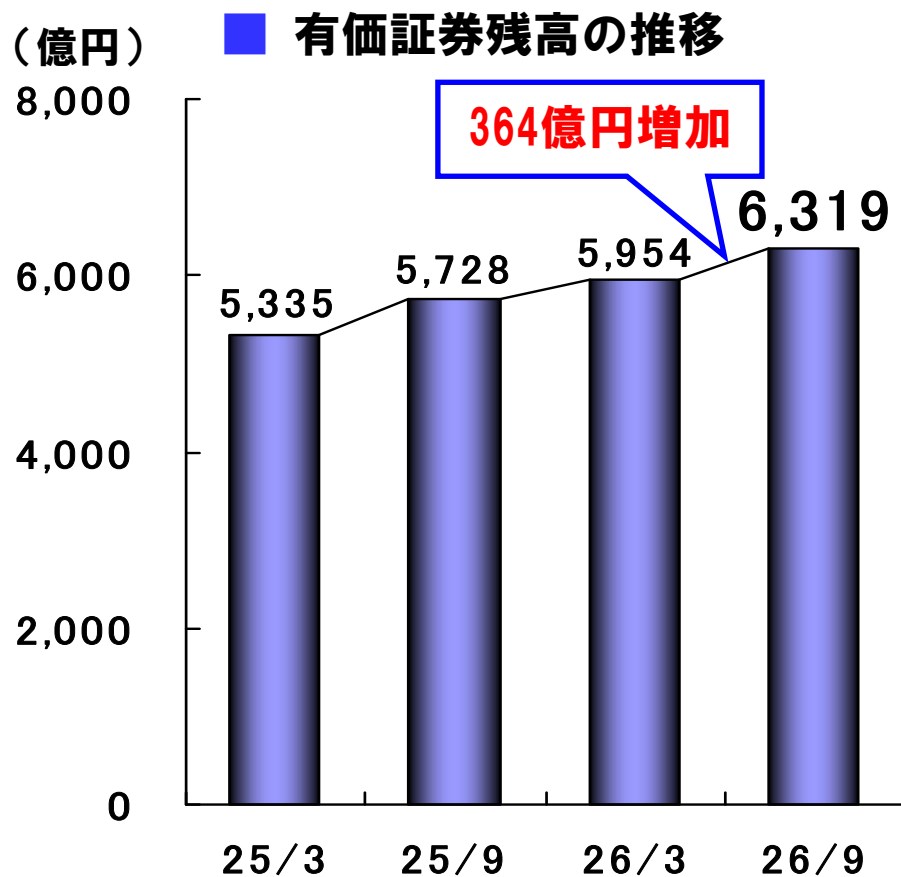
株式等関係損益は減少したものの、不良債権処理費用の減少などにより、経常利益は前年同期比2億5百万円増加の31億64百万円となりました。

※1 業務純益とは、金庫の基本的業務に係る利益です。

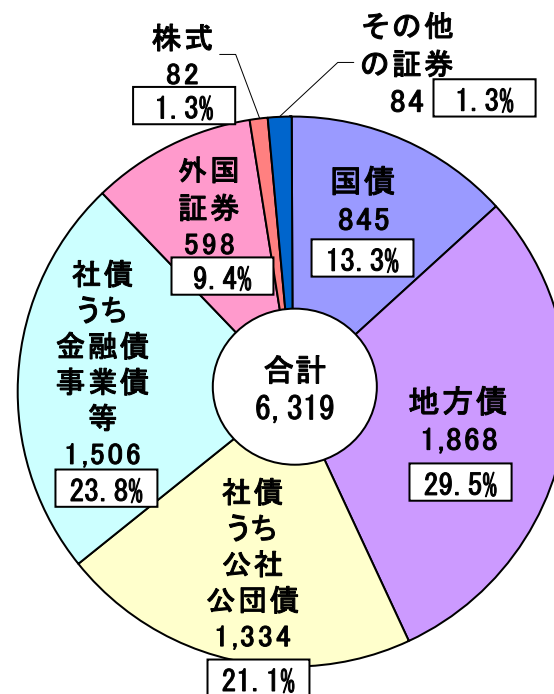
※2 コア業務純益とは、業務純益から、一時的な変動要因(国債等債券関係損益等)を除いた、より実質的な収益力を表す利益です。

# 4-1 有価証券の運用状況

- 有価証券残高は6,319億円。平成26年3月末比364億円増加。
- 国債、地方債、格付けの高い社債および外国証券等を中心に安全性重視で運用。



■ 有価証券の内訳 (平成26年9月末) (億円)



(注) 外国証券の元本はすべて円建てで運用しています。



## 4-2 有価証券の評価損益

- 有価証券の評価損益は205億55百万円。平成26年3月末比38億6百万円増加。
- 市場金利が低下したことにより、国債・地方債等の債券の評価損益は増加。
- 一方で、ドル高・円安の進行を背景に、株式相場が上昇。株式の評価損益は増加。

### 有価証券の評価損益

(単位：百万円)

	平成26年 3月末	平成26年 9月末	増	減
有価証券の評価損益	16,749	20,555	3,806	
株式の評価損益	3,124	3,839	714	
債券の評価損益	11,924	14,863	2,938	
その他の評価損益	1,699	1,852	153	

株式相場の上昇により、株式の評価損益は増加。  
(日経平均株価：  
3月末14,827円→9月末16,173円)

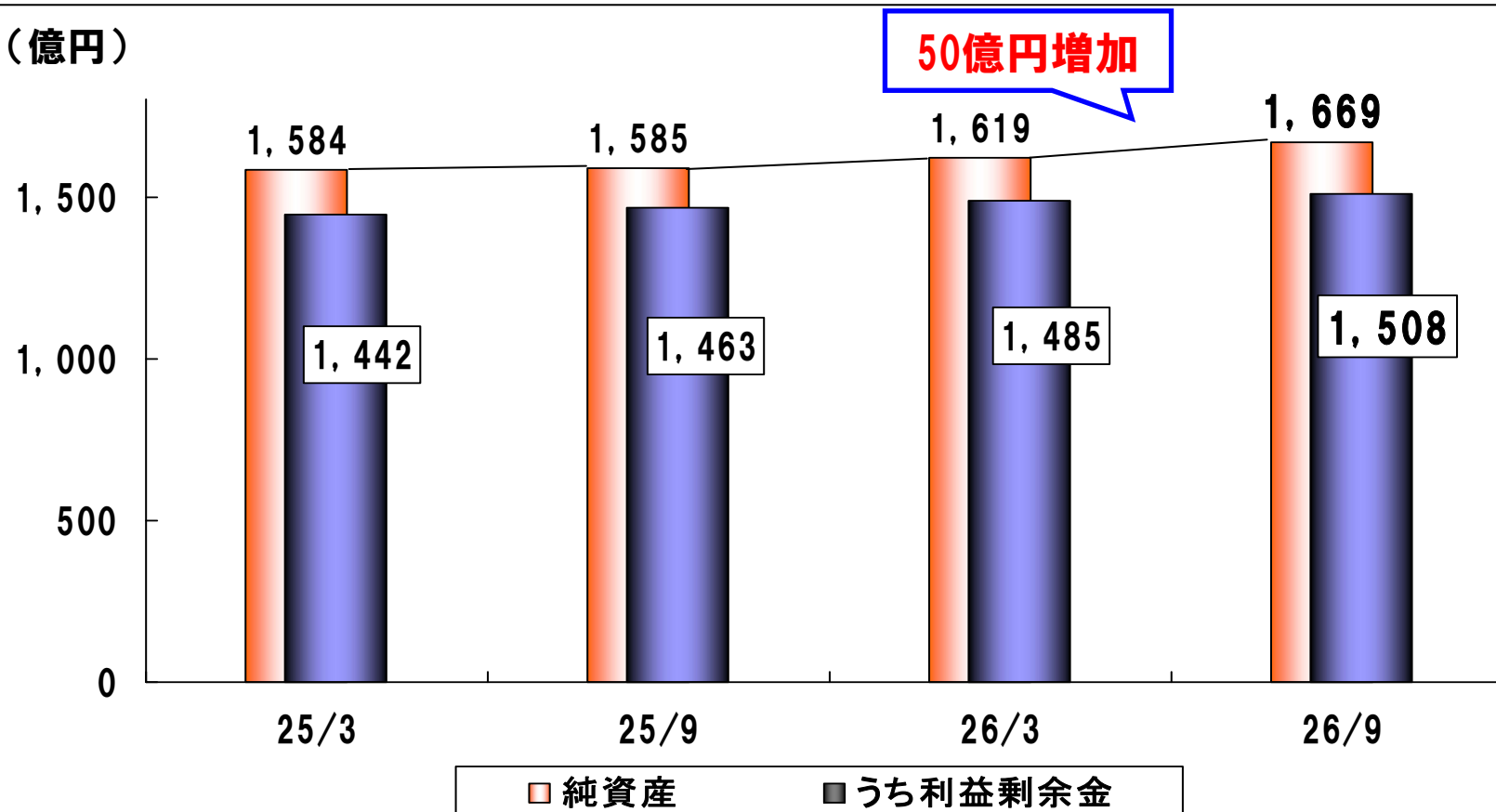
市場金利の低下により、債券評価損益は増加。  
(10年国債利回：  
3月末0.64%→9月末0.53%)

※その他は、外国証券、投資信託等

## 5-1 純資産の状況

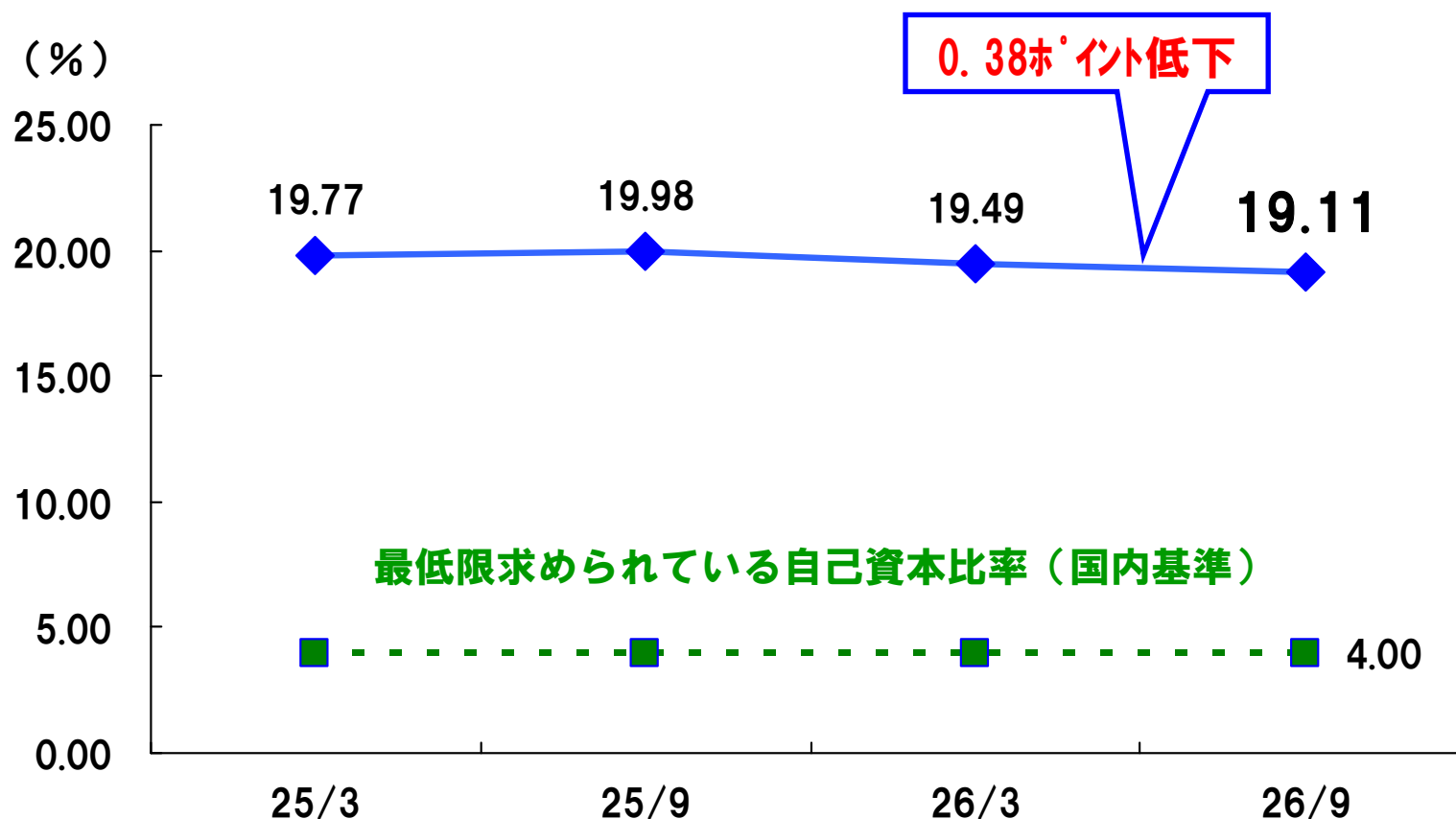
- 純資産は1,669億円。平成26年3月末比50億円増加。
- 創業以来の利益の積立金である利益剰余金は1,508億円。
- 純資産に占める利益剰余金の割合は90.3%と、純資産の質の高さが特徴。

(億円)



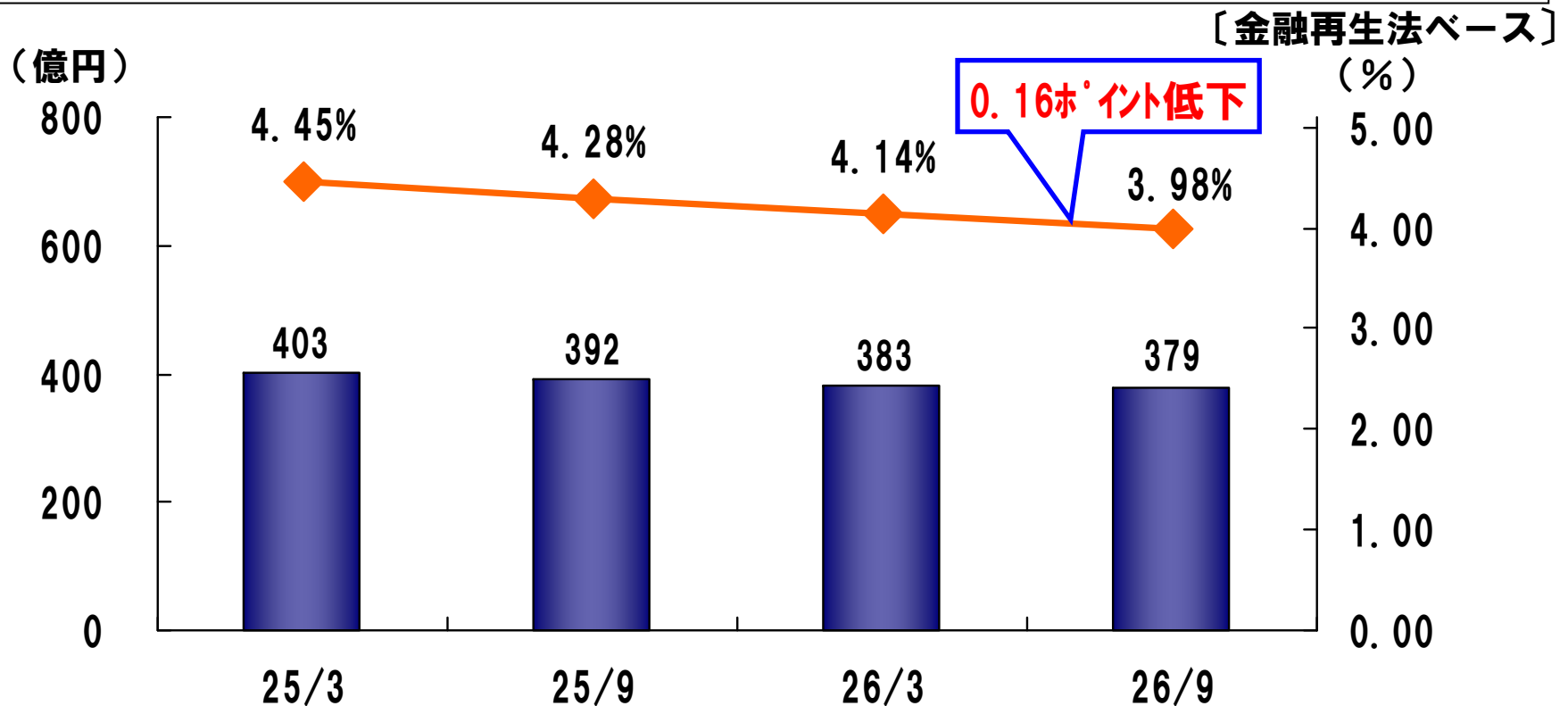
## 5-2 自己資本比率の状況

- 金融機関の安全性を表す代表的な指標である自己資本比率は、平成26年3月末比0.38ポイント低下し19.11%。
- 信用金庫に求められる国内基準4%を大幅に上回っています。



## 5-3 不良債権の状況

- 不良債権比率は、平成26年3月末比0.16ポイント低下し3.98%。
- 地域経済への影響を十分考慮しつつ、引き続き「事業再生・経営支援活動」を主体に改善に努める方針。



※当金庫は債務者に対する債権のうち、回収可能性がないと判断した部分について、直接貸借対照表から減額する部分直接償却を実施しています。

# 6-1 貸借対照表 (平成26年9月末現在)

科 目		金 額	科 目		金 額
(資産の部)		百万円	(負債の部)		百万円
現 金	金	17,808	預 金 積 金	金	1,805,385
預 け	金	393,738	借 用 金	金	38,850
買 入 金 銭 債 権		1,005	外 国 為 替		30
商 品 有 価 証 券		11	そ の 他 負 債		3,851
有 価 証 券		631,918	賞 与 引 当 金		526
貸 出 金		951,093	退 職 給 付 引 当 金		563
外 国 為 替		81	役 員 退 職 慰 労 引 当 金		229
そ の 他 資 産		8,632	偶 発 損 失 引 当 金		344
有 形 固 定 資 産		19,311	睡 眠 預 金 払 戻 損 失 引 当 金		99
無 形 固 定 資 産		377	繰 延 税 金 負 債		3,817
債 務 保 証 見 返		1,998	債 務 保 証		1,998
貸 倒 引 当 金		△3,301	<b>負 債 の 部 合 計</b>		<b>1,855,695</b>
(うち個別貸倒引当金)		(△1,459)	(純資産の部)		
			出 資 金	金	1,237
			利 益 剰 余 金	金	150,842
			会 員 勘 定 合 計		152,079
			そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金		14,899
			評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		14,899
			<b>純 資 産 の 部 合 計</b>		<b>166,979</b>
<b>資 産 の 部 合 計</b>		<b>2,022,674</b>	<b>負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計</b>		<b>2,022,674</b>

## 6-2 損益計算書 (平成26年4月1日~9月30日)



科 目	金 額	経 常 利 益	3,164
	百万円	特 別 利 益	2
経 常 収 益	13,514	特 別 損 失	24
資 金 運 用 収 益	10,682	税 引 前 当 期 純 利 益	3,142
貸 出 金 利 息	6,724	法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	553
有 価 証 券 利 息 配 当 金	3,142	法 人 税 等 調 整 額	270
役 務 取 引 等 収 益	1,339	法 人 税 等 合 計	823
そ の 他 業 務 収 益	255	当 期 純 利 益	2,318
国 債 等 債 券 売 却 益	213	繰 越 金 ( 当 期 首 残 高 )	244
そ の 他 経 常 収 益	1,236	当 期 未 処 分 剰 余 金	2,562
経 常 費 用	10,349		
資 金 調 達 費 用	858		
預 金 利 息	803		
役 務 取 引 等 費 用	776		
そ の 他 業 務 費 用	2		
経 費	8,312		
人 件 費	4,787		
物 件 費	3,306		
そ の 他 経 常 費 用	399		
貸 出 金 償 却	317		

## 7 平成26年度計画の進捗状況

※平均残高：1年間（半年）を平均した残高です。

	項目	26年9月期 (半期)実績	26年9月期 (半期)計画	計画対比
規模	預金平均残高	1兆7,492億円	1兆7,293億円	+198億円
	貸出金平均残高	9,250億円	9,202億円	+47億円
収益性	コア業務純益	20億円	20億円	+0億円
	経常利益	31億円	18億円	+13億円
	当期純利益	23億円	13億円	+9億円
健全性	自己資本比率	19.11%	—	—
	不良債権比率	3.98%	—	—

※健全性を表す自己資本比率、不良債権比率は年度計画を設定していますが、半期計画は設定していません。

# 対処すべき課題



## **(対処すべき課題①)**

### **収益基盤の強化**

- 医療・介護分野など、新たな成長分野に対するサポート力の強化。**
- コンサルティング機能を発揮した、事業承継、創業支援、海外事業支援等によるお客さまの経営課題の解決。**
- 業務効率化のため、IT基盤を含めた業務プロセスのゼロベースでの見直し。**

## **(対処すべき課題②)**

### **営業力の強化**

- 営業店職員全員が一丸となる、  
「全員営業体制」の構築。**
- 全店的な店舗機能のリニューアル、  
名古屋エリアへの新店舗開設の促進。**
- ATM・インターネット等のIT基盤  
を活用したサービス・商品の拡充。**

## **(対処すべき課題③)**

### **課題解決力のある人材育成**

- 専門力を持った職員の育成。**
- 若手職員の早期戦力化を目的とした人材育成プログラムのさらなる強化。**
- 女性職員の職務拡大と活躍促進。**

本日は、経営報告会にご参加いただき、誠にありがとうございました。  
本日の説明内容に関するご照会等がございましたら、下記までお願いいたします。

**【お問い合わせ先】**  
**碧海信用金庫**  
**総合企画室 広報調査課**  
**TEL : 0566-77-8102**

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。  
将来の業績は、経営環境の変化などにより、変動する可能性があることにご留意ください。  
また、本資料に掲載されております計数につきましては、会計監査人の監査を受けておりません。